



伊達市合併20周年



伊達市「だってちゃん」



名誉市民表彰

三浦 弥平 みうら やへい

(明治 24 年 4 月 － 昭和 46 年 4 月)

伊達郡白根村字木ノ田（現伊達市梁川町白根字木ノ田）に生まれ、旧白石中（現宮城県白石高校）から早稲田大学政治経済学科を卒業。小さい頃は体が弱く休学を繰り返し、早稲田大学に入学したのは 24 歳の時だった。旧白石中時代から陸上競技の道へ入り、早大時代は各種大会で入賞を重ねた。大正 9 年には第 7 回アントワープオリンピックのマラソン競技に金栗四三氏らとともに出場、福島県第 1 号のオリンピック選手となる。その後、大正 13 年の第 8 回パリオリンピックにも連続出場する。

昭和 3 年には母校の早稲田大学の講師要請を断り帰郷。昭和 4 年、郷里の山林に「オリンピック村」を建設し、青少年の体力づくり、健全育成に尽力するが、戦況の拡大によりわずか 4 年で閉村。昭和 17 年、東京・新京間親善マラソンを行い渡満、戦後は再び郷里へ戻り、地域青年を集めてのマラソン大会や私設保育所の開設、自宅を「白根体育公民館」として開放するなど、晩年まで地域スポーツの振興に尽力し、80 歳で永眠。



行 政

歴代市長

暦 順	氏 名	在任期間
初 代	仁志田 昇司	H18.2.12 ～ H30.2.11
第 2 代	須 田 博 行	H30.2.12 ～

※職務執行者 富田 健一郎 H18.1.1 ～ H18.2.11

歴代副市長

暦 順	氏 名	在任期間
助 役	武 田 芳 則	H18.4.1 ～ H20.3.31
第 2 代	小 林 武 正	H20.4.1 ～ H22.3.31
第 3 代	嶋 原 貞 男	H22.4.1 ～ H30.2.11
第 4 代	佐 藤 弘 一	H30.7.1 ～ R8.3.31
第 5 代	長 沢 弘 美	R8.4.1 ～

※地方自治法の改正により、平成 20 年 3 月 31 日付けで「助役」の役職を廃止

歴代教育長

暦 順	氏 名	在任期間
初 代	齋 藤 良 真	H18.1.1 ～ H19.7.31
第 2 代	湯 田 健 一	H20.4.1 ～ H30.2.11
第 3 代	菅 野 善 昌	H30.4.1 ～ R6.3.31
第 4 代	渡 部 光 毅	R6.4.1 ～

※職務執行者 佐藤 守一 H19.8.1 ～ H20.3.31

歴代収入役

暦 順	氏 名	在任期間
初 代	熊 坂 功	H18.1.1 ～ H18.3.31
第 2 代	谷 口 紀 夫	H18.4.1 ～ H20.3.31

※地方自治法の改正により、平成 20 年 3 月 31 日付けで「収入役」の役職を廃止

議 会

歴代議長

暦 順	氏 名	在任期間
初 代	高 橋 幸 吉	H18.1.11 ～ H18.4.30
第 2 代	滝 澤 福 吉	H18.5.1 ～ H22.4.30
第 3 代	吉 田 一 政	H22.5.1 ～ H26.4.30
第 4 代	安 藤 喜 昭	H26.5.1 ～ H30.4.30
第 5 代	佐々木 彰	H30.5.1 ～ H30.9.7
第 6 代	高 橋 一 由	H30.9.7 ～ R4.4.30
第 7 代	菅 野 喜 明	R4.5.2 ～ R8.4.30
第 8 代	佐 藤 実	R8.5.11 ～

歴代副議長

暦 順	氏 名	在任期間
初 代	高 木 征 治	H18.1.11 ～ H18.4.30
第 2 代	佐 藤 勲	H18.5.1 ～ H22.4.30
第 3 代	齋 藤 和 人	H22.5.1 ～ H26.4.30
第 4 代	大 橋 良 一	H26.5.1 ～ H30.4.30
第 5 代	菊 地 邦 夫	H30.5.1 ～ R4.4.30
第 6 代	大 條 一 郎	R4.5.2 ～ R8.4.30
第 7 代	中 村 正 明	R8.5.11 ～

伊達市の花木鳥



伊達市の木「あかまつ」



伊達市の花「桃」



伊達市の鳥「セキレイ」



伊達市合併20周年

ふり返る足跡

新たな交通網が誕生

相馬市と福島市をつなぐ「東北中央自動車道」が、令和3年4月に全線開通しました。



▲開通式典



▲整備された東北中央自動車道

かつてない功績を手に

2022年夏の甲子園。聖光学院高等学校野球部は、福島県勢では51年ぶりとなるベスト4入りを成し遂げました。



▲2022年夏の甲子園
(写真提供「福島民友新聞 令和4年8月19日付」)

にぎわい創出の大きな一手



▲イオンモール伊達イメージ図

令和8年11月にオープンが予定されている「イオンモール伊達」。にぎわい創出の新たな拠点になることが期待されます。

度重なる災害

1,000棟以上の住家被害をもたらした令和元年東日本台風。それでも私たちは未来への歩みを止めませんでした。



▲浸水時の様子



▲災害ごみの仮置き場
(やながわ希望の森公園)

“働ける場所”の創出



▲伊達市新工業団地（保原地域）

保原地域に伊達市新工業団地が整備され、令和3年12月に第1期の予約販売が開始されました。

官民一体となった地域づくり

高子駅北側に住宅地が造成され、市内初の官民連携施設「U-プレイス伊達」がオープンしました。



▲アップデートシティふくしま

U-プレイス伊達▶

歩みはじめた20年前

今から20年前の平成18年1月、少子高齢化社会に対応した新たな地域づくりを目的に、伊達町・梁川町・保原町・霊山町・月舘町の5町が合併し、『伊達市』が誕生しました。



▲伊達市開市式典



▲被災した教室



▲給水に並ぶ市民の列

襲いくる自然災害の脅威

平成23年3月11日、未曾有の大災害となった東日本大震災が発生。原発事故による放射能の影響もあり、私たちの生活環境が大きく変わりました。

にぎわいの拠点が誕生

伊達市の観光や魅力発信の拠点として、平成30年3月24日にオープンした「道の駅伊達の郷りょうぜん」。伊達市のおいしいもの『伊達食』を堪能できるスポットとして愛されています。



▲道の駅オープン式典

